

危機と変革の時代の大学生協の役割

大学生協連会長理事 庄司興吉

金融危機が経済危機に深化しつつ世界に広まり、深刻な事態となっています。この影響は直接間接に大学にも及んでこざるをえないでしょう。就職内定の取り消しが大きなニュースになりましたが、これからも学生の就職活動の困難が予想されます。それだけでなく、親のサポートやアルバイト口を失って勉学を続けられなくなる学生が増えたり、そもそも大学に来られなくなる若者が多くなったりしかねません。学生こそが大学存立の基礎ですから、これらのことが大学の窮境につながる可能性もありうるでしょう。

重大なのは政府の責任です。世界の多くの政府はこれまで新自由主義を容認し、市場原理と貨幣操作で資本主義をコントロールできると思ってきて、その結果こうなってしまったのですから、責任を取って雇用を確保し、資金調達をなめらかにして、一刻も早い経済の健全化に努めなければなりません。経済危機が社会の将来を担う学生や大学の危機にまで広がってしまうのを、政府は全力を挙げてくいとめなければなりません。

こうしたなかで、大学と大学生協の役割が大きくなってきています。国立大学法人化後の大学は、その運営資金をあらゆるところから得ようとせざるをえなくなってきましたが、その矛先を学生と教職員の事業である生協にまで向けるべきではないはずです。大学生協は大学の中で、学生と教職員の協同によって生活と教育と研究に必要なものを供給し、それをつうじて大学の運営と発展に協力してきているのですから、その自立と大学における役割を認められなければなりません。そのためにも大学生協への、組合員の「緑生い茂るような」参加が必要です。

アメリカでアフリカ系アメリカ人の大統領が誕生し、変革の時代も始まりました。人種・民族や性別や年齢による差別のない、グローバルな市民社会に向けての大きな変革の一步です。大学生協も、第二次世界大戦後の困難な時代に立ち上がり、成長してきた歴史を忘れず、大学とともに、地球市民社会のなかでの協同・協力・自立・参加のあり方を考え、行動していかなければならないと思います。

(大学生協 Report2009-090212/090412)